

272 中央大学実業講話会

〔『法学新報』第20卷11(237)号 明治43年12月1日〕

○中央大学実業講話会 去月二十二日午後五時より商科の主催

に係る同会を校内に開催したり伊藤理事長として開会の挨拶あり學員武田明氏は「実業者の徳義」なる題下に商人の品性修養の必要を懇切に説述し學員岩崎鉄治郎氏は「商人の禅学」なる題を掲げて氏の禅学修養の徑路を説述せらる次に閣博士は「商業教育」と題し我邦近古丁雅小僧の教育より今日の学校教育に移りたるは世の進歩に伴ひ競争の劇甚となりたると業務の頻繁なるに従て分業の發達したるに因るとの冒頭を置き即ち競争の劇甚なるに従ひ余暇を以て商科の子弟に修学せしむるか如き悠揚なる余地なきに至り去ればとて一面に於ては學術の必要は日一日と加はるを以て例令出来得るものとするも余暇的學習にては其必要を満たすを得されは或一定の期間専心學問に従事せざるへからず又商業の進歩發達は其組織漸次大を加ふ組織の大なるに従ひ業務は漸く分業の区域を拡むへし此分業の發展と同時に組織の大体に通ずる概括的知識の養成を必要とするに至り此知識を得るには学校教育に依らざるを得すと論し更に進て然らば商業に関する学校教育の価値は何れに在りやと云ふに商業に関する概括的知識の養成に在りと論断し一一欧米及我邦に於ける実例を挙げて商業教育の目的を明確適切に説述せられ夫れより師友一堂に會して雑談中に食事を了し高崎學員の「山岡鉄太郎駿府に於て西郷隆盛に會す」なる一場の講談あり喝采声裡に解散したり